

岩出市の子供たちの学力・学習の様子

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要

【 調査の概要 】

- 1 調査日 令和7年4月14日(月)～17日(木)
- 2 調査目的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、
 - 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 - 学校における児童生徒への**学習指導の充実**や**学習状況の改善**等に役立てる
 - そのような取組を通じて、教育に関する**継続的な検証改善サイクル**を確立する
- 3 調査対象 小学校6年生、中学校3年生
※本年度の岩出市実施学校数・児童生徒数 小6…6校435名 中3…2校412名
- 4 調査事項 ① 児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕
質問調査〔学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等〕
② 学 校：質問調査〔指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等〕
- 5 調査問題 ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出题。
・「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの**授業改善**のメッセージを発信。
- 6 今年度の調査の特徴 ・CBT 調査の導入（中学校理科） ・生徒質問でのランダム方式の試行
・多様な生徒の状況把握 ・結果公表の内容、スケジュールの改善

【 教科に関する調査の結果から 】

1 全体の傾向

〈小学校〉国語・算数ともに平均正答率と同程度（－3ポイント以内）。理科は、下回っている。

〈中学校〉国語・数学・理科全て平均正答率（平均IRTスコア）を下回っている。特に数学の差が大きい。

2 各教科における平均正答数（単位は問）

小6	国語	算数	理科
調査問題数	14	16	17
全国	9.4	9.3	9.7
和歌山県	9.5	9.2	9.7
岩出市	9.0	8.8	9.0

中3	国語	数学	理科
調査問題数	14	15	
全国	7.6	7.2	
和歌山県	7.2	6.8	
岩出市	6.7	5.9	

3 各教科における平均正答率（単位は％）

小6	国語	算数	理科
全国	67	58	57
和歌山県	68	58	57
岩出市	65	55	53

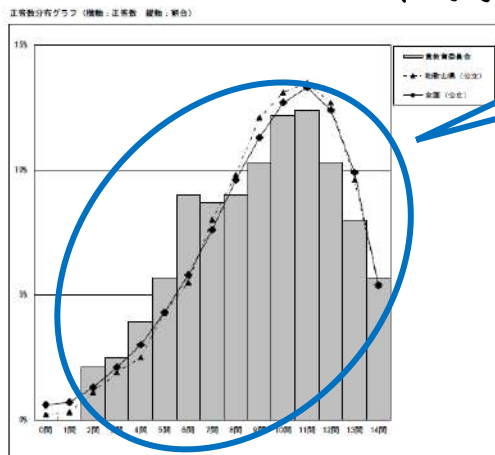
中3	国語	数学	理科
全国	54	48	503※
和歌山県	52	45	480※
岩出市	48	39	427※

※令和7年度から、中学校理科は、CBT が導入され、平均IRTスコアで結果が示されている。

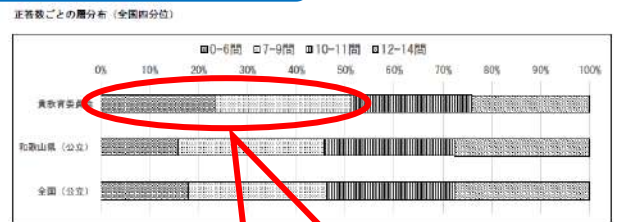
4 正答率度数分布と四分位表、並びに教科概要

〈 小学校 6 年生 〉

【国語】

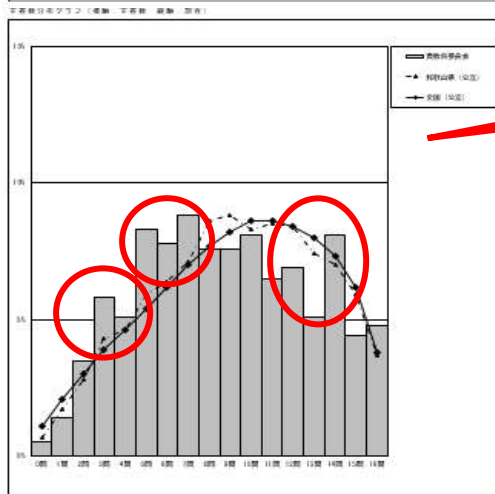


比較的バランスのよい分布曲線

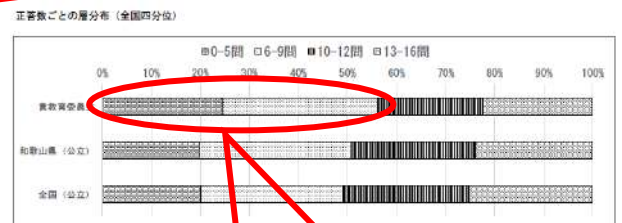


第1、2四分位が50%超

【算数】

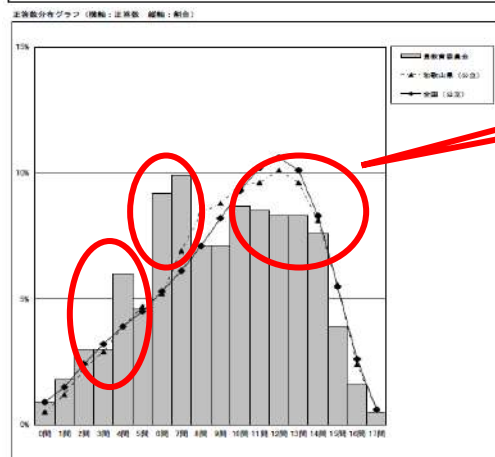


3つの山があり、定着にばらつき

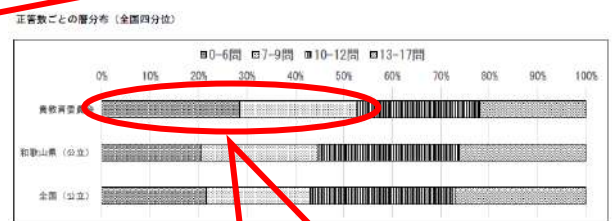


第1、2四分位が50%超

【理科】



3つの山があり、定着にばらつき



第1、2四分位が50%超

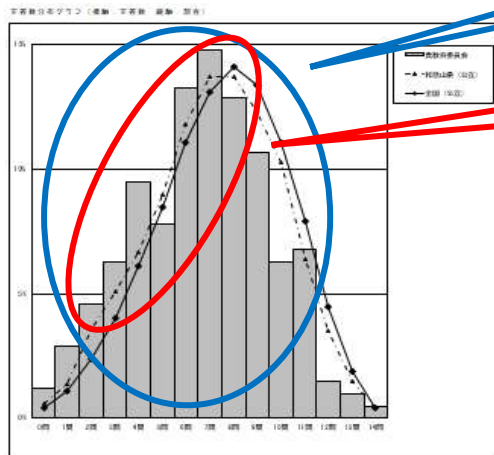
国語科は、「漢字の読み書き」や「情報と情報の関連付け」など知識・技能の領域に成果が見られた。先生の指導の継続や宿題等の丁寧な見取りの結果が表れている。しかし、説明文などの「読み取り」の領域、要旨を把握し、文章全体の構成を捉える問題や目的に応じて、文章と図表を結び付け、必要な情報を見つけるなど、**思考し判断する深い学びに関連する領域に課題**があると言える。「よむYOMUワークシート」の活用や授業での見方・考え方を働かせる授業の推進を進める。

算数科は、**分数の異分母どうしの加法の計算において成果**が見られた。着実に計算する力が付いていると言える。しかし、数直線上でのひと目盛りの大きさを分数でとらえる問題に課題が見られた。つまり、**分数の深い概念理解が得られていない可能性**がある。

どの教科においても、正答率度数分布から**学力の二極化の傾向**が見られる。また、四分位のグラフからも、**第1、2四分位が50%を超えている**。多様な子供が教室にいる状況では、**従前の一斉授業だけでは難しい**。今、求められる**個別最適な授業（個に応じた学び）**を推進する。

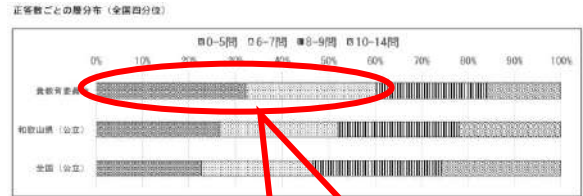
〈 中学校 3 年生 〉

【国語】



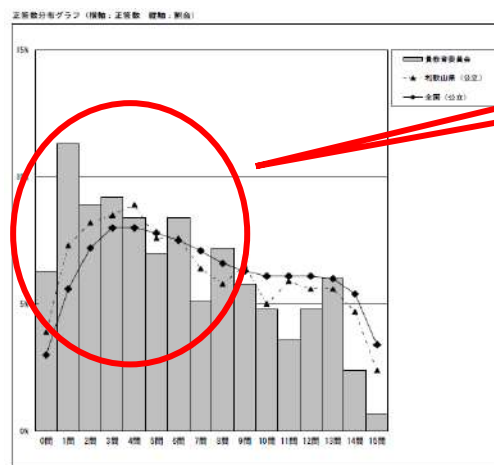
比較的バランスのよい分布曲線

学力の二極化の傾向

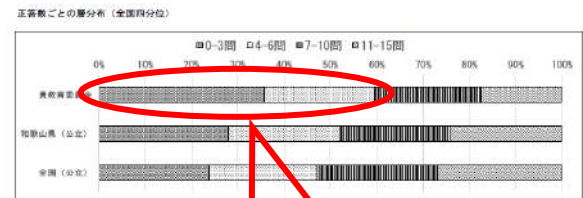


第1、2四分位が約60%

【数学】

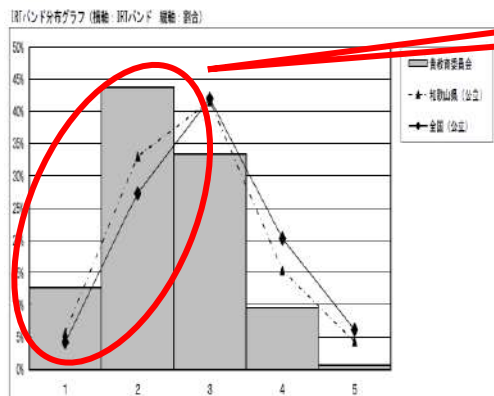


低位層が多い

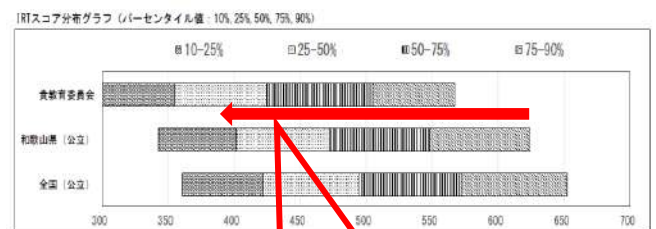


第1、2四分位が約60%

【理科】



低位層が多い



全体的に低位に偏っている

国語科は「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等多くの領域で、県の結果と同様、岩出市でも課題が見られる。まずは、基礎的な学力向上を目指し、「YOMU ワークシート」の推進や、各学校での基礎学力向上への取組を支援する。

数学科でも同様、知識・技能の基礎的な問題から、思考・判断・表現等の発展的な問題にも課題が見られた。県の結果と特徴が類似しているが、上記グラフからも分かるように低位層が多くみられる。まずは、知識・理解の領域で基礎の定着を進めるよう指導していく。また小学校と同様、正答率度数分布から学力の二極化の傾向が見られ、多様な子供が教室内にいる状況では、従前の一斉授業だけでは難しい。今求められる個別最適な授業（個に応じた学び）を推進する。

【 質問調査の結果から 】

- 1 基本的生活習慣に関すること (1)～(3)
- 2 挑戦心・達成感・人権意識・自己有用感等に関すること (5)(7)(9)(11)
- 3 学習習慣に関すること (17)
- 4 読書習慣に関すること (22)(23)
- 5 地域や社会に関わる活動に関すること (27)

	質 問 事 項〔上段は岩出市、下段は全国〕	小学校	R6年度比	中学校	R6年度比
(1)	朝食を毎日食べていますか 【食べている】	78.6 (83.3)	-5.0 -0.1	71.0 (78.7)	-5.8 -0.4
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか 【寝ている】	33.7 (38.9)	-5.2 -0.8	33.3 (34.0)	2.6 -0.9
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか 【起きている】	57.0 (55.6)	4.7 -0.5	53.4 (54.7)	1.0 -0.6
(5)	自分には、よいところがあると思いますか 【ある、どちらかといえばある】	85.0 (86.9)	5.5 2.8	80.0 (86.2)	2.7 2.9
(7)	将来の夢や目標を持っていますか 【当てはまる、どちらかといえば当てはまる】	81.7 (83.1)	-0.8 0.7	58.0 (67.5)	-2.3 1.2
(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか 【思う、どちらかといえば思う】	97.8 (97.2)	1.5 0.5	95.4 (95.9)	1.0 0.2
(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いませんか 【思う、どちらかといえば思う】	95.8 (96.4)	1.3 0.5	94.9 (96.6)	2.7 1.4
(17)	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか 【全くしない】	8.1 (5.7)	-0.2 0.4	18.1 (7.7)	2.0 1.1
(22)	家には、およそどれくらいの本がありますか (雑誌、新聞、教科書は除く) 【0～10冊】	22.9 (15.1)	3.2 0.5	27.1 (17.4)	1.0 -0.6
(23)	新聞を読んでいますか 【ほとんど、または、全く読まない】	76.9 (77.9)	-0.6 1.9	87 (82.1)	1.1 0.8
(27)	地域や社会をよくするために何かをしたいと思いませんか 【ある、どちらかといえばある】	76.0 (81.3)	-6.7 -2.2	69.5 (75.3)	0.4 -0.8

- ◇ 「早寝・早起き・朝ごはん」を励行する必要がある。
- ◇ 中学生の自己有用感や将来展望について取り組む必要がある。
- ◇ 小学校・中学校ともに自分で学習する時間が全くない児童生徒が多い。学習習慣の確立が喫緊の課題である。
- ◇ 読書環境が整っていない家庭が多いため、学校や生涯学習施設での読書習慣の機会提供が必要がある。
- ◇ コミュニティスクールの制度を活用し、地域に誇りを持ち、社会貢献の機会を設定する必要がある。

6 ICT機器を活用する状況に関すること

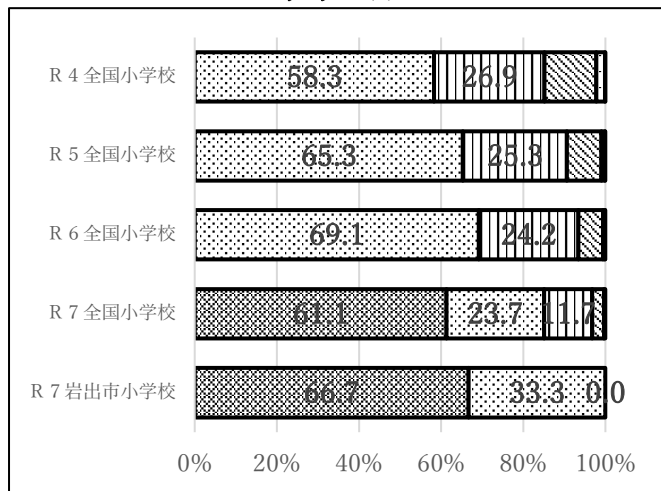
- ◆ ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、小学校97%、中学校95%（いずれも前年比4ポイント増）。ICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・IRTスコアとの間に、一定の関係性が見られ、使用頻度が高いほど、正答率が高い傾向にある。
- ◇ 岩出市においても、グラフA・Bの通り同じ傾向にある。また、グラフC～Fの通りICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・IRTスコアとの間に、一定の関係性が見られ、使用頻度が高いほど、正答率

が高い傾向にある。今求められている「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を軸に、その授業における端末の有効な活用方法を示しながら、活用頻度を上げることを推進していく。

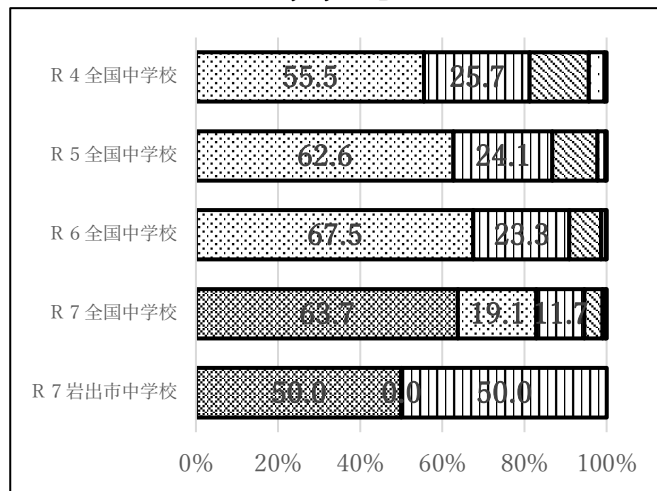
〔質問〕 前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか



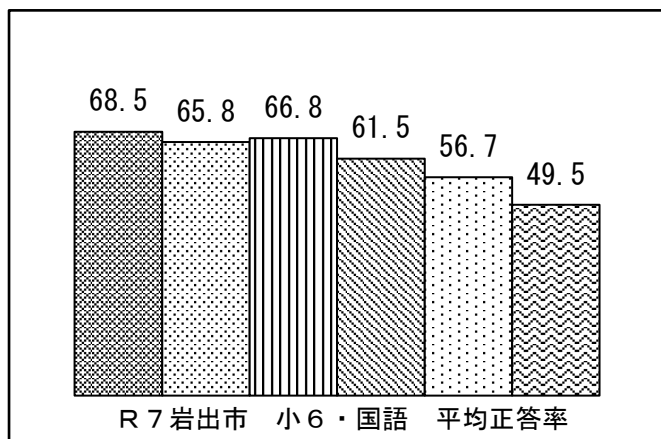
グラフ A



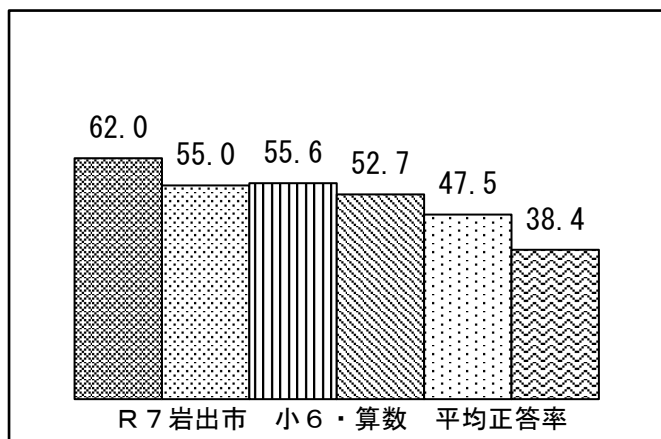
グラフ B



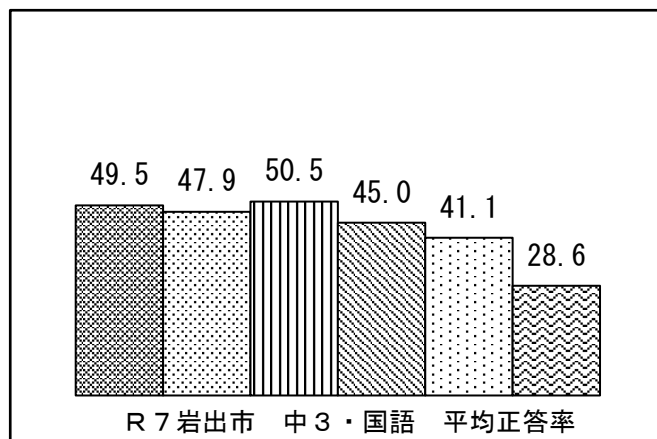
グラフ C



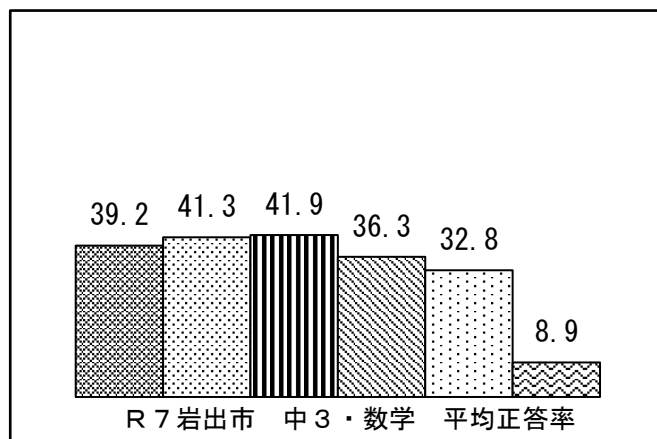
グラフ E



グラフ D



グラフ F



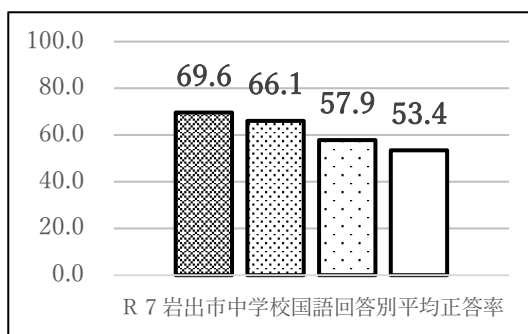
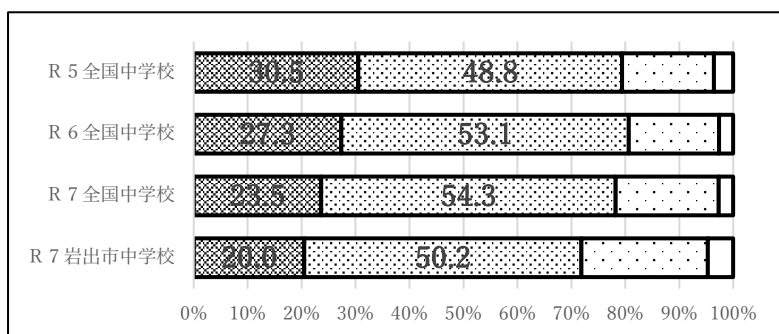
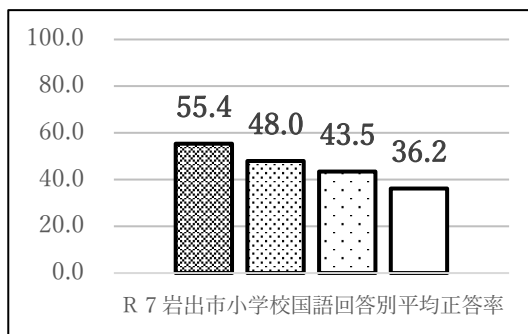
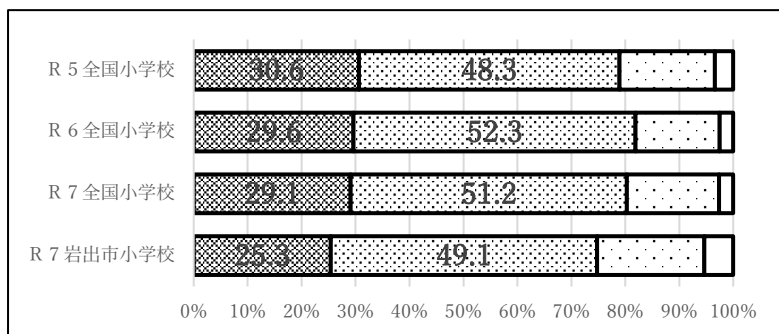
7 学習指導要領の趣旨を踏まえた取組に関すること

- ◆ 全国では、昨年度までと同様約80%の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている。また、質問紙と教科の結果からのクロス集計から「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・IRTスコアが高い傾向にある。家庭の社会的経済的背景（SES）（家庭内の本の冊数調査）が低い状況であったとしても同様の傾向にある。

◇ 岩出市においても、グラフの通り同様の傾向にある。このような状況から、次期学習指導用要領改訂に先立ち、現行でも示されている「一斉授業からの脱却」は急務である。早急に授業改善の推進を図る。

〔質問〕 前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない



【参考】 令和6年度全国学力・学習状況調査「経年変化分析調査・保護者に対する調査の結果」から
 ◆ スマートフォン、テレビゲームの利用時間が拡大し、学校外での生活や学習に悪影響を与えている。

